

2025年9月5日

学校法人山口学園
ECCアーティスト美容専門学校
学校関係者評価委員会

ECCアーティスト美容専門学校 学校関係者評価委員会 報告書

学校法人山口学園 ECC アーティスト美容専門学校 学校関係者評価委員会は、2025年9月5日に学校関係者評価委員会を開催しましたので以下のとおり報告いたします。

1 開催日時:2025年9月5日(金)17:00~18:30

2 場所 :ECC アーティスト美容専門学校 (1号館 201教室)

3 参加者 :学校関係者評価委員(「ECCアーティスト専門学校 学校評価実施規定」選出区分)

【関連業界等関係者「同第12条第1項(1)」】

大久保 紀子 氏 (一般社団法人 ジャパン・ビューティメソッド協会 JBMA)【委員長】

荒川 悠子 氏 (株式会社ガモウ関西)

竹村 辰則 氏 (株式会社 thsd-5)

【卒業生「第12条第1項(2)」】

中野 りか 氏 (ECC アーティスト美容専門学校卒業生)

【保護者または地域関係者「第12条第1項(3)」】

中上 隆雄 氏 (済美地域社会福祉協議会 会長)

【その他校長が必要と認める者「第12条第1項(4)」】

貴治 康夫 氏 (立命館高等学校)

【同席者】

中村 竜二 ECC アーティスト美容専門学校 学校長

川添 雅英 ECC アーティスト美容専門学校 副校長

長尾 邦光 ECC アーティスト美容専門学校 キャリアセンター責任者

下西 智也 ECC アーティスト美容専門学校 入試課責任者

村松 杏香 ECC アーティスト美容専門学校 広告広報課

山本 恭子 ECC アーティスト美容専門学校 専任教員

山崎ひろみ ECC アーティスト美容専門学校 教務課

2024年度自己評価報告書に基づく概要説明および課題点の共有、委員の皆様からの意見・質疑応答

(1) 基準1「教育理念・目的・育成人材像」、基準2「学校運営」の報告(中村)

- ・高等部が 2024 年度に 2 年目をむかえた。年々入学生も増え、関わる先生方も拡大。
- ・トータルビューティ基礎学科の新設。進路が決まりきっていない受験生のニーズに応える 1 年制課程を新開講。
- ・運営方針を教職員に伝える機会は設けているが、授業や運営を振り返り次につなげていく機会がまだ不十分のため、今後増やしていく。
- ・教職員のスキルアップ(学生指導、技術)が課題。また、チャット GPT などの AI システムを活用した業務効率化もこれから図っていききたい。

▶「教職員の能力向上の研修内容」に関する意見

- ・高等学校では、新学期始まってすぐに全職員を集めて研修会を実施。講師は職員の中で立て、実践した内容を広めていくことを目的としている。外部から講師を呼ぶのではなく、学内で能力開発について発表。(貴治)
- ・社員が使える研修補助費があり、希望すれば参加できる環境を整えている。得意な社員が講師役となり、PC 研修も年 1 回開催。業務をより効率的に進めるため、成功事例を共有する。(荒川)
- ・幹部の能力開発への投資が課題。教える側のスキルが高くないと組織としてよくなっていかない。指導者のマネジメント研修は時間もたっぷり取る必要があり、その間現場を離れるとなると思うようなスピード感では進まないが、指導者の能力開発は必須と考える。(竹村)
- ・個人で仕事をしているので事務作業は AI に頼ることがあるが、自分の力を AI が超えてしまう側面もあるので、「考える」ところまで任せてしまうとスキルアップとは違ってくるので取り入れ方には注意が必要。(中野)
- ・教員の技術研修と比べると、職員の研修が後手になりがち。研修費用を負担する形での取り組みを進めている。(大久保)

(2) 基準 3「教育活動」、基準 4「学修成果」の報告(川添・長尾)

- ・コンテスト受賞、検定実績の報告。資格検定試験に対する学生のモチベーションの差が大きくなってきている。
- ・学生アンケートの結果は昨年より上昇。数字上にはなるが、学生が役に立っている、力がついていると感じる授業が提供できていると考える。
- ・学習意欲の高い学生のモチベーション向上、スキルアップを目的として、「メイクゼミ」「ヘアゼミ」といった学内外の講師からプラスアルファで学べる取り組みも実施、事前申請すればだれでも参加可能とした。
- ・高等部 2 年生が外部フォトコンテストで入賞。人間関係など何かしら問題を抱えている生徒も多い中、成果となったことで本人にとってもご家族にとっても喜びとなり、やる気呼び起こす機会を作れたことは嬉しい結果。
- ・特に美容科教員免許を所持する教員の確保が課題。免許取得費用を学校で負担し、教員を育てていく取り組みを昨年からはスタートした。
- ・2024 年度就職内定率 100%を達成。就職前年度から業界研究を行う授業を展開し、自分の適性・職種を理解して就職活動に臨むよう指導しミスマッチを防ぐ。ただし就活開始時期になっても進路希望が明確になっていない学生が増えてきている現状も。企業側の採用活動は前倒し傾向のため、そこへ学生が追い付いておらずギャップが生じている。
- ・卒業生の状況把握はこれまで企業様へアンケートを取る形で実施。退職してしまうとその後が追えない課題があったため、2025 年度から卒業生 LINE を活用して卒業生本人へアンケートを取る形へ変更予定。

▶「就職率の向上と卒業生の社会的評価」に関する意見

- ・業界の就活時期が前倒し傾向だが、決められない学生が増えてきている。そこに対して学生を急かすのではなく、進路を決めるためのコンサルジュのような役割を設け、一人一人に合った導き方をしていく方が良いのではという意見が出ている。ただマンツーマン対応はマンパワーがかかるので、課題として上がってはいるが検討中。サロンでは 5 年以上継続して勤務されている方は新卒でなく中途が多い傾向がある。サロンへアンケート調査を実施しているので、フィードバックができるのでは。(荒川)
- ・ボランティアで ECC の学生が手伝ってくれている。社会の良い面も悪い面もそうした活動の中で見てもらえたり、世代の違う大人と接することで学ぶもあり、将来の役に立つのでは。(中上)
- ・ECC の卒業生を採用したことがあるが、卒業生に限って言うと、選考会など社内イベントに意欲的に参加してくれる。組織の中で牽引力を発揮するメンバーの中に必ず入っている印象。(竹村)
- ・今でも美容業界に残っている同級生はクラスのうち半分くらいで、離職率は高いと感じる。企業のコトは調べていても、自分の強みとマッチしていないことが原因になっている。もっと自分のことを理解することが離職率の低下につながるのでは。(中野)

- ・業界で長く続いている卒業生の特徴を知ることがヒントになるのでは。(貴治)

(3) 基準 5「学生支援」、基準 4「教育環境」の報告(川添・長尾)

- ・10%強の学生が休退学。前年度より0.2ポイント改善したが進級率90%が大きな壁となっている。休退学の防止についてはクラス担任・教務課コース担当が個別対応、保護者連絡を実施し授業に復帰できるようサポート。学生相談室とも連携しているが、どうしても対処療法となってしまうのが現状。コース内での人間関係が原因となるケースが増えている。
- ・保護者との連携をさらに強化。保護者説明会は今年度例年よりも多い参加。引き続き保護者と連携しながら学校生活の支援を行う。
- ・求人情報や面接過去問をデジタル化。オンライン上でいつでも閲覧が可能。
- ・オンライン上での面接・説明会が増えている。学内にWEBルームを用意し学生は自由に使える環境。
- ▶「中途退学への対応(特にコース内コミュニケーションに起因するケースへの対処方法)」に関する意見・質問
- ・ボランティアで日常とは違う地域のイベントに参加することで、息抜きや新たな人とのつながりができるのでは。(中上)
- ・通信制出身者は何割くらい?(竹村) →回答:年々増え、今年の入学者は3割近い。(川添)
全日制出身者と一緒になったときにどうしてもギャップがあるので、バイトなどで免疫をつけてから入学した方が周囲の学生とコミュニケーションが取れるようになるのでは。(竹村)
- ・1年次のクラスで仲間意識が強くてできしまうと、2年次3年次になじめなくなる。女性が多く技術やセンスへの嫉妬もあり、他者との違いを認められないことがあるのかなということも在学中を思い返して感じる。(中野)
- ・学生対応はチームであたることが一番大切。また、保護者との連携を密にするのが重要。電話やメールなどのツールもあるが、絶対に対面で1度は会う。家庭訪問でもいい。クラス内で孤立してしまうなら、他コースや先輩からのアクションで立ち直れることもあるかもしれない。高等学校では学科やコース変更をして対応をすることもある。だが専門学校の場合はコースによつての専門性が高いので難しい。(貴治)
- ・大勢の中で学ぶのが苦手という学生のため、学内にひとりでも受講できる場を設ける、リモートを可能にする対応をとっている学校もある。(荒川)
- ・クラス替えはあるか?(荒川)
→回答:複数クラスがあるコースでは、クラスの状況を見ながらクラス替えの有無を判断して実施している。(川添)
- ・半年ごとにクラス替えをすると、つまずいた人間関係を早めにリセットできるのでよかった事例ではある。クラス変更が難しい場合は席替えをして人間関係を少し変えていくことで効果があった。(大久保)

(4) 基準 7「学生の募集と受け入れ」の報告(下西)

- ・高校生の考え方や悩みが多様化しており、様々ツールも使い個別の対応をしている。
- ・早い段階から進路が決まるAO入学予定者には、プレスクールを実施。スムーズな専門学校生活への移行をサポートする。
- ・入試面接の場におけるNG質問が増えている中で、人間性や意欲をいかに読み取っていくかが課題。

(5) 基準 10「社会貢献・地域貢献」の報告(川添)

- ・学園内社会貢献センターを通じたボランティア活動や、海外研修について報告。

▶「ボランティア活動への参加」に関する意見

- ・ECCの学生は地域になくはならない人材になっている。ボランティアの楽しみを見つけ、今後も続けてほしいという気持ちで接している。今後も学生を受け入れたいと思っているのでこれからもよろしくお願いします。(中上)

上記項目の具体的な取り組みを次回の学校関係者評価委員会で提示してまいります。